

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 松下 幸雄 先生

社団法人日本鉄鋼協会 名誉会員、東京大学名誉教授、工学博士松下幸雄先生は、平成21年5月18日、ご逝去されました。享年91（満89歳）。謹んで哀悼の辞を申し上げます。

先生は昭和17年9月に東京帝国大学工学部冶金学科をご卒業、直ちに東京帝国大学講師（第二工学部）に任ぜられました。同時に海軍短期現役として昭和20年9月まで勤務後、昭和22年1月に東京大学助教授に任ぜられ、昭和24年5月第二工学部が生産技術研究所に改組されたのに伴い、同研究所第四部に勤務されました。昭和32年3月に工学博士の学位を受けられ、昭和34年1月に東京大学工学部冶金学科に配置換えされた後、昭和35年5月東京大学教授に昇任され、鉄冶金学講座（昭和39年の学科改変後は金属製錬学第三講座）を担当され、昭和55年4月1日停年により退官されました。昭和55年5月に東京大学名誉教授の称号を授与されました。退官後、昭和63年3月まで、日本鋼管株式会社の顧問を務められ、鉄鋼生産技術の発展、後進の指導に寄与されました。

先生は一貫して高温の金属製錬反応に関する研究に従事し、鉄冶金学における溶融鉄合金—スラグ間の種々の元素の反応の熱力学、速度論的研究を行い、数多くの論文、著書を通じてわが国の金属製錬技術の発展に大きな貢献をされました。これらの研究成果は、発展初期にあったわが国の鉄鋼業のその後の飛躍の発展に技術的指針を与え、昭和28年、41年、45年の3回にわたり、日本鉄鋼協会俵論文賞として表彰されています。また、先生の金属製錬学に対する功績に対して、昭和33年に日本金属学会功績賞、昭和40年に日本鉄鋼協会事業功労賞、昭和41年に日本金属学会谷川ハリス賞を受賞されました。昭和55年4月には長年の鉄鋼製錬研究における学術、技術の発展に対する功績により、日本鉄鋼協会西山賞を受賞され、昭和60年には日本鉄鋼協会名誉会員に推挙され、平成2年に日本鉄鋼協会製鉄功労賞を受賞されました。さらに、平成5年11月には勲三等旭日中綬章を受章され、平成17年には、長年にわたる鉄鋼製錬研究と鉄鋼業への発展への貢献に対して日本鉄鋼協会の最高の賞である俵賞を受賞されました。

海外からの評価も高く、昭和55年に北京鋼鉄学院名誉教授の称号を、昭和57年には米国鉄鋼協会（American Iron and Steel Institute）から名誉会員の称号を授与されました。

関連学協会へのご貢献も大きく、昭和50年4月～昭和52年4月には日本金属学会副会長、昭和53年4月～昭和55年4月には日本鉄鋼協会副会長を、昭和57年4月～昭和59年4月には同会長の要職を務められ、金属工学、材料学の学術分野のみならず、生産技術の発展にも貢献されました。また、昭和45年4月～昭和60年4月の15年間の長きにわたり、日本学術振興会製鋼第19委員会委員長として、鉄鋼製錬分野の学問的な進歩をリードされました。

先生はまた、わが国の科学技術行政にも多く参画されました。原子力委員会専門委員（昭和50～52年）、科学技術庁金属材料技術研究所運営委員（昭和50～56年）、通商産業省工業技術院大型工業技術研究開発連絡会議委員（昭和50～56年）、文部省学術審議会専門委員（昭和51～52年）、文部省大学設置審議会専門委員（昭和50～56年）、大河内記念会審査委員（昭和45～55年）、日本学術会議会員推薦管理会委員（昭和61年～平成元年）等、数多くの委員を務められました。

先生が鉄鋼科学技術と本会の発展に尽くされた多大なご業績に感謝し、会員一同衷心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り致します。

平成21年6月
日本鉄鋼協会 会長 友野 宏